



# カメラの向こ う



【月の文学館】

芳田尚哉

「本当にいいんですね」

私が訊くと彼女は無言でコクリと頷いた。

それを確認してからシャッターを切る。

「はい、おしまいです」

ほんの数秒の出来事。これだけのために、彼女は長い時間をかけて考え抜いたのだろう。そして満足したのだろう。ゆっくりと私の前から姿を消していく彼女と手元のカメラを交互に見る。

突然離ればなれになった恋人に、今の自分の姿を見せて欲しい。

そんな彼女の願いを叶えるべく、早速現像する。

綺麗に写っている。これなら彼女は満足してくれるだろう。

相手の反応を予想しながら、その写真を渡す。

「突然すいません。これをあなたに」

受け取った彼は、一瞬時間が止まったかのように固まり、次の瞬間には真っ青になっていた。

「うわっ、なんだこの心霊写真」

彼は写真を投げ捨てて去って行く。

私はそれを拾い上げて見る。そこには、透き通った彼女が、怨めしい笑顔で微笑んでいる。

F i n o .

## カメラの向こう

<http://p.booklog.jp/book/120845>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/120845>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト